

北九州市に設置されている 街区表示板の暫定的分類

小 出 秀 雄

要 旨

街区表示板とは、「住居表示に関する法律」(昭和37年法律第119号)に基づき住居表示を実施している地域でみられる、町名(～丁目など)と街区符号(～番)を表示している板である。本稿は前著「福岡市における旧型の街区表示板の分類」の続編であり、福岡県最初の政令指定都市である北九州市の住居表示施策を例に、街区表示板の変遷と種類を試論する。そして、現時点でのまとめと課題を挙げる。

キーワード：住居表示, 街区表示板, 政令指定都市, 北九州市, 福岡市

1. 本稿の背景と目的

街区表示板とは、「住居表示に関する法律」(昭和37年法律第119号)に基づき住居表示を実施している地域でみられる、町名(～丁目など)¹と街区符号(～番)を表示している板である。市区町村は義務として、「区域の見やすい場所に」、「表示板を設けなければならない」(同法第8条)。街区表示板はありふれたまちの風景の一部ではあるものの、実はよく見ると、表示内容の異なるものがごくまれに存在する。

前著「福岡市における旧型の街区表示板の分類」では、筆者が住んでいる福岡県福岡市の街区表示板の分類を行った。前著を執筆した時は、414枚の「旧

表示板」(2020年11月14日時点)を考察したが、その後の断続的な歩行調査で若干ではあるが増え、2021年11月26日時点で旧表示板の累積発見数は468枚となっている²。

本稿はその「街区表示板研究」の続編として、福岡県最初の政令指定都市である北九州市(1963年2月10日に市発足、同年4月1日に政令指定都市)の住居表示施策を例に、街区表示板の変遷と種類を試論する。あくまで試論であり、設置期間などについていくつか不確定な点は残るが、それは今後の課題として示す。

2. 北九州市の住居表示施策

まず、北九州市の住居表示に関する主な施策を、図表1に示す。

北九州市が政令指定都市となったのは福岡市より9年早い³、前述の「住居表示に関する法律」に基づき条例が施行されたのは1966年6月15日であり、福岡市の条例施行(1964年3月30日)より2年ほど遅い。また、同日付で戸畑区の北部より、町界町名整理と住居表示実施が開始された。

なお、1966年5月に鉄製の街区表示板が設置され始めたことが、北九州市制20年の記念写真集より明らかである(100頁)。写真では、塀にまさに設置される「千防一丁目1」と別の職員が手にしている「新池一丁目4」の表示板が見

1 北九州市では福岡市より、「丁目」のない町がはるかに多い。福岡市では特に、歴史のある旧博多部(博多駅より北西、博多湾・御笠川・那珂川に囲まれたエリア)が「～町(まち)」のみで構成されているが、例えば北九州市の中心部である小倉北区では、以下の住居表示実施済みの町で「丁目」が存在しない。赤坂海岸、朝日ケ丘、板櫃町、鋳物師町、江南町、大田町、大手町、貴船町、金鶏町、黒住町、許斐町、紺屋町、皿山町、山門町、寿山町、城内、城野団地、昭和町、白萩町、神幸町、親和町、須賀町、船頭町、船場町、高見台、高峰町、堅林町、田町、常盤町、富野台、中井口、中井浜、長浜町、西港町、萩崎町、東城野町、平松町、古船場町、弁天町、妙見町、明和町、山田町、吉野町、若富士町(五十音順、北九州市(2020)『各區別公称町名一覧表』、同市情報開示)。

2 文末の補足図表を参照のこと。

3 福岡市は1972年4月1日に政令指定都市となり、東区・博多区・中央区・南区・西区の5区が発足した。その10年後である1982年5月10日、西区が3つに分区し、新たに城南区と早良区が発足した。それ以降、福岡市は7行政区で構成されている。

年/月	出来事
1962/5/10	「住居表示に関する法律」(昭和37年法律第119号)施行
1963/2/10	5市対等合併(門司市・小倉市・若松市・八幡市・戸畑市), 北九州市発足
1963/4/1	政令指定都市, 門司区・小倉区・若松区・八幡区・戸畑区が発足(計5区)
1965/7/13	住居表示実施区域および住居表示の方法を決定
1965/8/2	北九州市住居表示審議会を設置
1965/12/1	市政だより4面「住居表示をわかりやすく 十年後は全市街地を新町名に」
1966/5	街区表示板の設置開始, 最初の表示板は戸畑区の「千防一丁目1」
1966/6/1	市政だより4面「住所がわかりやすい 戸畑北部6月15日から実施」
1966/6/15	住居表示に関する条例および同施行規則が施行 戸畑区の北部で町界町名整理・住居表示実施, 新町名は小芝, 沢見, 三六町, 新池, 仙水町, 千防, 土取町, 天神, 中原西(五十音順)
1974/4/1	小倉区が小倉北区と小倉南区, 八幡区が八幡東区と八幡西区に(計7区)
1974/4~ 1977/3	各戸別に住居表示板を設置

出所: 北九州市ウェブサイト「北九州市年表」「区政概要(令和3年版)」「市政だよりデジタルアーカイブ」, 財団法人北九州都市協会(1983)『記念写真集 北九州市20年のあゆみ』をもとに筆者作成

図表1 北九州市の主な住居表示施策

えるが⁴, 「千防一丁目1」は現在の戸畑区役所のエリアであり, 「新池一丁目」はその隣町である。

北九州市は発足当時, 門司区・小倉区・若松区・八幡区・戸畑区の5行政区で構成されていたが, 1974年4月1日の行政区再編成により, 小倉区と八幡区がそれぞれ2つに分割され, 門司区・小倉北区・小倉南区・若松区・八幡東区・八幡西区・戸畑区の計7つとなった。北九州市史の補稿資料によると, 小倉区と八幡区の分割ラインは以下の通りである⁴。また, この時いくつかの区境が変更された⁵。

4 北九州市史編さん委員会編(1984)『北九州市史: 五市合併以後補稿資料』, 253, 260頁。

5 小倉区山路地区を八幡東区へ, 若松区葛島を八幡東区へ, 若松区浅川地区を八幡西区へ, 八幡区槻田公団住宅を小倉北区へ, 戸畑区弘文町地区を八幡東区へ, 八幡区大字枝光の一部(旭硝子北九州工場)を戸畑区へ, それぞれ編入(北九州市史編さん委員会編(前掲)253-254, 260頁)。

【小倉区の南北の分割線】

足立山系の稜線 → 足立配水池（北側線） → 県道赤坂湯川線 → 湯川三差路 → 日豊本線 → 八幡町（北側水路） → 紫川右岸（東側線） → 藪瀬橋 → 主要地方道曾根槻田線 → 山田弾薬庫用地（南側線） → 大字小熊野と大字長行の大字境 → 当時の区境

【八幡区の東西の分割線】

新日鉄用地と黒崎窯業用地の境界 → 大字藤田と大字前田の大字境（鉄道横断） → 陣山1丁目東・南の住居表示実施済み区域（桃園2・3丁目との境界） → 市道東浜祇園原線 → 八幡中央高校（東側線） → 花尾町と元城町の町境 → 北九州道路横断 → 花尾山・帆柱山の稜線 → 当時の区境

3. 福岡市と北九州市の街区表示板の種類

図表2は、福岡市と北九州市の街区表示板の種類と変遷を暫定的に示したものである。下半分は、2019年8月14日から2021年12月31日に筆者が北九州市で調査して構成した、表示板の種類と変遷である。今後の調査によって、内容に微妙な変更がありうる。

一方、図表2の上半分は、福岡市における表示板の種類と変遷であり、内容は前著で示したものとほぼ同じである。ただし今回、北九州市の表示板の定義と合わせるために、福岡市の「[a] 珺瑯板」を、末尾表示により「[a1] 街区」と「[a2] 番街区」に分けた⁶。また、「[f] 横書き板（現行板）」としていたものを、「[f] ローマ字板（現行板）」とした。

次に図表3は、両市の街区表示板の暫定的な対照表である。図表2と同様、表示板の名称はすべて筆者が考案したものであり、今後の調査次第で微妙な変更がありうる。

図表2と図表3では基本的に、同じアルファベット表示の板（福岡市は小文

⁶ 現時点でそれぞれ1枚ずつしか遺っていないため、「[a] 珺瑯板」の合計は2枚である。

西暦	1962	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	81	82	88	89	2000～
福岡市	[a] 珪瑯板 62-63	鉄製 [c] 区あり鉄板 72-73? 区名縦書き [g] 区のみ鉄板 72 中央区 [d] 5 区板 72? -82 区名縦書き 東・博多・中央・南・西区 [h] 旧区板 72? -82 区名縦書き 旧西区等 アルミ製 [e] 7 縦板 82-88/89 城南・早良区 [f] ローマ字板 (現行板) 88/89- 区名横書き 5 区 (1972～82)																
	[a] 街区 62																	
北九州市	[a] 街区 62	[a] 街区 62	[b] 区なし鉄板 64-72	鉄製 [b] 区なし鉄板 64-72 [a] 街区 62 [a] 街区 62 [A] 珪瑯板 66-69 [A1] 角字 66-67 [A2] 丸字 68-69 鉄製 [C] 番なし鉄板 66-67? 区名縦書き [C1] 番あり鉄板 68? 区名縦書き [C2] 番あり鉄板 68? 区名縦書き [H1] 旧区板 69? -74 区名縦書き 旧小倉・八幡区 [H2] 旧区被覆板 (現行板4) 74-被覆 区名縦書き 旧小倉・八幡区 [D] 5 区板 (現行板1) 70? - 区名縦書き 門司・若松、戸畑区 [E] 7 区板 (現行板2) 74- 区名縦書き 小倉北・小倉南・八幡東・八幡西区 [G] 地図 (別添) 【編在】 80年代後半? - 小倉南・八幡東・八幡西区 [F] ローマ字板 (現行板3) 【編在】 2000頃? - 区名横書き・読み板名 門司・小倉北・八幡東区 5 区 (1962～74)														
	[a] 街区 62	[a] 街区 62	[b] 区なし鉄板 64-72	鉄製 [b] 区なし鉄板 64-72 [a] 街区 62 [a] 街区 62 [A] 珪瑯板 66-69 [A1] 角字 66-67 [A2] 丸字 68-69 鉄製 [C] 番なし鉄板 66-67? 区名縦書き [C1] 番あり鉄板 68? 区名縦書き [C2] 番あり鉄板 68? 区名縦書き [H1] 旧区板 69? -74 区名縦書き 旧小倉・八幡区 [H2] 旧区被覆板 (現行板4) 74-被覆 区名縦書き 旧小倉・八幡区 [D] 5 区板 (現行板1) 70? - 区名縦書き 門司・若松、戸畑区 [E] 7 区板 (現行板2) 74- 区名縦書き 小倉北・小倉南・八幡東・八幡西区 [G] 地図 (別添) 【編在】 80年代後半? - 小倉南・八幡東・八幡西区 [F] ローマ字板 (現行板3) 【編在】 2000頃? - 区名横書き・読み板名 門司・小倉北・八幡東区 5 区 (1962～74)														
	[a] 街区 62	[a] 街区 62	[b] 区なし鉄板 64-72	鉄製 [b] 区なし鉄板 64-72 [a] 街区 62 [a] 街区 62 [A] 珪瑯板 66-69 [A1] 角字 66-67 [A2] 丸字 68-69 鉄製 [C] 番なし鉄板 66-67? 区名縦書き [C1] 番あり鉄板 68? 区名縦書き [C2] 番あり鉄板 68? 区名縦書き [H1] 旧区板 69? -74 区名縦書き 旧小倉・八幡区 [H2] 旧区被覆板 (現行板4) 74-被覆 区名縦書き 旧小倉・八幡区 [D] 5 区板 (現行板1) 70? - 区名縦書き 門司・若松、戸畑区 [E] 7 区板 (現行板2) 74- 区名縦書き 小倉北・小倉南・八幡東・八幡西区 [G] 地図 (別添) 【編在】 80年代後半? - 小倉南・八幡東・八幡西区 [F] ローマ字板 (現行板3) 【編在】 2000頃? - 区名横書き・読み板名 門司・小倉北・八幡東区 5 区 (1962～74)														

アルミ製

出所：筆者作成、福岡市の記述は前著に基づく（以下同様）。

図表2 福岡市と北九州市の街区表示板の種類と変遷（暫定版）

	福岡市	北九州市
鉄製	[a] 珙瑯板 1962-63 [a1] 街区 1962 [a2] 番街区 1963	[A] 珙瑯板 1966-69 [A1] 角字 1966-67 [A2] 丸字 1968-69
	[b] 区なし鉄板 1964-72	
	[c] 区あり鉄板 1972-73?	[C1] 番なし鉄板 1966-67? [C2] 番あり鉄板 1968?
アルミ製 (g 除く)	[d] 5区板 1972?-82 東・博多・中央・南・西区	[D] 5区板 (現行板1) 1970?- 門司・若松・戸畑区
	[e] 7縦板 1982-88/89 城南・早良区	[E] 7区板 (現行板2) 1974- 小倉北・小倉南・八幡東・八幡西区
	[f] ローマ字板 (現行板) 1988/89-	[F] ローマ字板 (現行板3) 【偏在】 2000頃?- 門司・小倉北・八幡東区
	[g] 区のみ鉄板 1972 中央区	[G] 地図 (別添) 【偏在】 1980年代後半?- 小倉南・八幡東・八幡西区
	[h] 旧区板 1972?-82 旧西区等	[H1] 旧区板 1969?-74 旧小倉・八幡区 [H2] 旧区被覆板 (現行板4) 1974-被覆 旧小倉・八幡区

出所：筆者作成

図表3 福岡市と北九州市の街区表示板の対照表 (暫定版)

字 a～h, 北九州市は大文字 A～H) が類似の関係となるように定義している。

例えば鉄製に関しては、福岡市の「[a] 珙瑯板」は北九州市の「[A] 珙瑯板」に、福岡市の「[c] 区あり鉄板」は北九州市の「[C1] 番なし鉄板」と「[C2] 番あり鉄板」に、それぞれ対応している。また、アルミ製である「[d] 5区板」と「[D] 5区板」から、「[h] 旧区板」と「[H1] 旧区板」「[H2] 旧区被覆板」についても、同様の対応関係としている。なお、「[g] 区のみ鉄板」と「[G] 地図 (別添)」は表示板に添えるタイプの小さい板であり、「g」はアルミ製ではなく鉄製である⁷⁾。

筆者は福岡市に住んでおり、北九州市での歩行調査は2019年8月に始めたとはいえ、調査のタイミングは数カ月おきであり⁸⁾、歩き回った日を合計しても

設置期間	1966～67	1968～69	1966～67?	1968?	1969?～74	1974～	
板名	[A1] 珙瑯板 角字	[A2] 珙瑯板 丸字	[C1] 番なし 鉄板	[C2] 番あり 鉄板	[H1] 旧区板	[H2] 旧区被 覆板	旧表示板計
門司区	5	0	2	0			7
小倉北区	0	3	0	0	3	7	13
小倉南区	7	0	0	0	1	0	8
若松区	19	6	1	1			27
八幡東区	0	0	0	0	0	4	4
八幡西区	1	1	0	0	0	3	5
戸畑区	12	2	6	0			20
北九州市計	44	12	9	1	4	14	84
	珙瑯板計	56	鉄板計	10	アルミ板計	18	

※門司・若松・戸畑区の [H1] 旧区板は [D] 5 区板と見分け不可。

出所：筆者作成、発見数は2021年12月31日時点。

図表 4 発見した北九州市の旧表示板

それほど多くはない。

図表 4 は、これまで発見した旧型の街区表示板を分類したものである。以下の節では、各表示板について、筆者が撮った写真を示しつつ説明していく。

4. スポンサー名が入った珙瑯板（1966～69年）

写真 1 に示す 2 枚のスポンサー入り街区表示板は、珙瑯製である。

図表 4 に示したように、これまで見つけた [A] 珙瑯板は 56 枚におよぶ。これまで、八幡東区を除く 6 つの区で存在を確認しており、そのうちの約半数（=25 枚）は若松区に遺っている⁷。下部に記されたスポンサーにはある程度の地域性があり、例えば門司区の珙瑯板はすべて「貸衣裳壽」（港町）、旧小倉

7 1972年4月に住居表示が実施された福岡市中央区平尾で、区のみ鉄板を1枚だけ発見している。平尾の別の場所では、現行板の裏に区のみ鉄板と区なし鉄板がくっついている状態を見た（金網にぶら下げられており、裏側から確認できた）。区のみ鉄板がどれほど貼られたかは、依然不明である。

8 筆者の妻の実家が北九州市戸畑区にある事情から、訪問する時機を有効に利用し、公共交通機関と徒歩で調査を行っている。道路を市内電車が走っていた時代から、戸畑は小倉に匹敵する交通の要衝であり、各区へ向かう鉄道とバスが充実しているほか、若松への渡船場もあり、調査拠点として適している。

区は「小倉二神天神」（小倉大門電停前），若松区は「若松西鉄ホテル」，戸畑区は「戸畑二神」が比較的多い。



出所：筆者撮影（2020年4月3日）

写真1 [A1] 珽瑯板角字と [A2] 珽瑯板丸字の例（戸畑区）

写真1の2枚は同じような作りに見えるが（スポンサーが同じということもあり），よく見ると字体が異なる。北九州市から情報開示された『各区別公称町名一覧表』と，筆者が各地で撮影した写真を綿密に照合して，1966～67年に住居表示が実施された町の名称は角字が，1968～69年に住居表示が実施された町の名称は丸字が使用されていることを発見した。これを理由に，写真1の左を [A1] 珽瑯板角字，右を [A2] 珽瑯板丸字と定義している¹⁰。

さらに細かい点を指摘すると，表示板の「〇丁目」の〇部分に，[A1] では算用数字が，[A2] では漢数字が使われている。正式な町名はすべて漢字であるが，縦方向に字が並ぶ表示板において，筆者は算用数字を使った方がはるかに見やすいと感じる。

この珽瑯板は実は，公式の表示板ではない。この次に紹介する鉄板の方が，

9 珽瑯板を発見した町を住居表示実施年・五十音順に並べると，以下の通りである。
1966年：戸畑区小芝，三六町，新池，千防，天神，中原西，1967年：戸畑区初音町，元宮町，若松区桜町，浜町，本町，門司区清見，畑田町，旧小倉区重住，城野，若園，旧八幡区熊西，1968年：戸畑区沖台，正津町，若松区西園町，白山，旧小倉区三郎丸，旧八幡区東鳴水，1969年：旧小倉区大田町，三萩野。

10 前の注で示したように，戸畑区小芝では1966年に，同区沖台では1968年に，それぞれ住居表示を実施している。

公式に設置されたものである。なぜ市の全域でこれほど普及し、しかもこれほど遺っているのかは大変興味深い。

5. わずかに遺る鉄板（1966～68?年）

写真2の鉄板2枚は、区名が縦書きされた文字通りの鉄製である。

前述の北九州市制20年の記念写真集には、左の[C1]番なし鉄板が設置される様子が掲載されている。一方、右の[C2]番あり鉄板は若松区で見つけたものであり、左の板より文字が太く、末尾に「番」と書かれている。北九州市でこの仕様はこれ1枚しかなく、また番なし鉄板と材質が違うようにも見えるため、自作ではないかと思われる¹¹。



出所：筆者撮影（2020年1月2・3日）

写真2 [C1] 番なし鉄板と [C2] 番あり鉄板の例（戸畑区・若松区）

1966年に設置が始まった公式の街区表示板であるにもかかわらず、番なし鉄板はこれまで9枚しか見つかっていない。番あり鉄板を含めると、計10枚である。

筆者は現時点で、そもそも番なし鉄板は製作数が非常に少なく、スポンサーによる大量の珉瑯板がその不足を補完したのではないかと推測している¹²。

11 自作とおぼしき鉄板の例は、福岡市にもある。文末の補足写真を参照のこと。

加えて、番なし鉄板はその翌年、つまり1967年までに設置されたものしか見当たらず、また門司区・若松区・戸畑区以外の4区で、鉄板は今のところ見つかっていない¹³。

まとめると、鉄板が設置された期間はかなり短く、設置対象エリアが限られていたようである。他方、鉄板が見つかっていない旧小倉区や旧八幡区では、住居表示実施とともにいきなりアルミ板が貼られたのではないかと、と思われる。いつ貼られ始めたのかは、次の節で記述する。

6. アルミ製の表示板の導入（1969?年～）

鉄製とアルミ製の表示板の分岐点を推測する際に、住居表示の実施年とアルミ製の表示板の発見数を比較するのが適切かと思われる。

写真3の左は [H1] 旧区板であり、当時小倉区だった城野（現在の小倉南区）に現存している。一方、写真3の右は [H2] 旧区被覆板であり、小倉区の部分に「小倉北区」の板が被せられている。その下の本体に小倉区と印字されているのは、間違いはない。

城野で住居表示が実施されたのは1967年であるが、この時点で設置されたのは珫瑯板であり（2枚確認済み）、アルミ製の導入はもう少し先だと思われる。また、1968年に住居表示が実施された片野新町（現在の小倉北区で、城野の隣町）でも、旧区板が1枚見つまっている。

そして、宇佐町での住居表示実施は1969年であるが、実はこの年以降、1973年まで1年刻みで、旧区板や旧区被覆板が発見されている¹⁴。この頻度を根拠

12 1966年6月1日の市政だよりには、「新しい住所は、街区の四ツ角に街区表示板（町名と街区符号）」を取り付けるなどで知らせた、と書かれている（4面）。

13 番なし鉄板を発見した町を住居表示実施年・五十音順に並べると、以下の通りである。1966年：戸畑区千防、天神、中原西、1967年：門司区東門司、若松区本町。また、唯一の番あり鉄板が存在する若松区白山では、1968年に住居表示が実施された。

14 1969年以降の旧区板と旧区被覆板を五十音順に並べると、以下の通りである（「旧」を省略）。1969年：小倉区宇佐町、大田町、八幡区熊手、1970年：小倉区下富野4丁目、須賀町、八幡区天神町、1971年：小倉区下富野1丁目、1972年：小倉区中井、八幡区東鉄町、東山、1973年：八幡区陣原。



出所：筆者撮影（2020年3月5日）

写真3 [H1] 旧区板と [H2] 旧区被覆板の例（旧小倉区）

に、北九州市でアルミ製の表示板が導入されたのは1969年であると、本稿では暫定的に決めておく。

7. 現行板は4種類

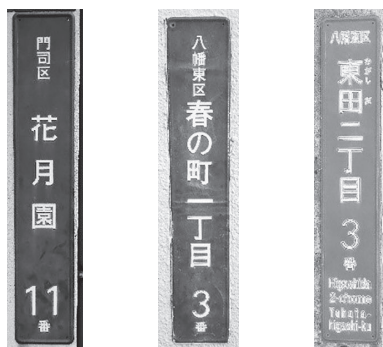
北九州市の「現役」の街区表示板は、何種類あるだろうか。

仮に、①アルミ製で、②区名を正確に表示している、という2つの条件を満たすものを現行板とするならば、写真4で示した [D] 5区板（5区時代からの門司区・若松区・戸畑区）、[E] 7区板（分区後の小倉北区・小倉南区・八幡東区・八幡西区）、[F] ローマ字板（門司区・小倉北区・八幡東区に偏在）に写真3の右の旧区被覆板も含めて、現行板は計4種類である。

前著で記したように、福岡市の現行板は、1988年から89年にかけて全市で貼り替えられたローマ字板（区名横書き）であるが¹⁵、北九州市の現行板のほとんどは、ローマ字なし（区名縦書き）である。

5区板は、旧小倉区と旧八幡区を除く、門司区・若松区・戸畑区に設置された表示板を指す。正確には「5区発足時から存続している区の板」であるが、

15 小出（2021）36頁。



出所：筆者撮影（2020年1月1日、2021年1月1日）

写真4 [D] 5区板・[E] 7区板・[F] ローマ字板の例（門司区・八幡東区）

大幅に短縮したこの名称を使う。門司区・若松区・戸畑区は、1974年の行政区再編成において区名が変わらなかったで、いつからアルミ製の表示板があったのかが明らかではない。

ただ前述のように、1969年にアルミ製の表示板が旧小倉区と旧八幡区で導入されたと仮定すると、その翌年にはほかの区でも普及が始まったと思われる。そこで、5区板は1970年頃から導入された、と推測する。

なおこの推測には、珧瑯板の最後の設置が1969年であり、それ以降の珧瑯板は見当たらない、という点も考慮している。各区で住居表示実施が進んでいく中で、街区表示板の製作が途切れる、という事態は起こらないはずである。門司区・若松区・戸畑区ではすでに番なし鉄板の製作も終了し、次の手段であるアルミ製に移行していたのではないか。

7区板は、正確には「7区のうち新設された区の板」であり、小倉北区・小倉南区・八幡東区・八幡西区の表示板を指す。これは明らかに、1974年以降設置されたものである。本来であれば、すべてこの板に貼り替えられるべきであったのだろうが、予算の制約からか、前述のように新区名の部分だけ製作し、本体に重ねたエリアも多かったのだろう。

福岡市では全域でローマ字併記の表示板が普及しているが、北九州市でローマ字が併記されたものは、局所的にしか存在しない。

これまで筆者が調査した範囲でローマ字板が見つかったのは、門司区の東港町、港町、小倉北区の浅野、八幡東区の尾倉、東田、平野である¹⁶。これらの町には門司港、小倉駅、旧スペースワールド、九州国際大学などがあり、外国人が訪れる頻度が高いため、このようなローマ字併記の表示板が設置されたのかもしれない。

なお、北九州市のローマ字板は、町名の横に読み仮名が付いており、親切的な印象を受ける¹⁷。福岡市で読み仮名が付いた表示板は、これまで1種類もない。福岡市近隣の自治体では、大野城市と太宰府市の現行板で、読み仮名が採用されている。

このローマ字板がいつ導入されたかは、今のところ不明である。一方で、関連していそうな情報として、八幡東区の東田地区では2000年7月1日に住居表示が実施され、その翌年に同地区で、「北九州博覧祭2001」（7月14日～11月4日）が開催された。

東田で見かける街区表示板のほとんどがローマ字板であることから（オープンスペースが多く枚数自体は少ないが）、この博覧祭に向けた準備がローマ字板導入の契機ではないかと考え、ここでは暫定的に2000年頃の導入としておく。

8. 局所的に存在する地図

北九州市にあって福岡市にないものの一つは、局所的に設置されている【G】地図（別添）である。

写真5は、八幡西区木屋瀬（こやのせ）の街区表示板に別添されている地図である。地図はすべての表示板に添えられているわけではなく、地図が隣にない表示板もあれば、地図だけが貼られているケースもある。

地図が別添されている地域は、筆者が確認している限り、小倉南区・八幡東

16 それぞれの町の全域でローマ字板が設置されているわけではなく、例えば八幡東区の尾倉と平野では、ローマ字板と7区板が混在している。ローマ字板が7区板のあとに導入されたのは、明らかである。

17 1枚だけであるが、7区板（ローマ字なし）で読み仮名が入っている例を、小倉南区八幡町で見かけた。



出所：筆者撮影（2019年10月13日）

写真5 [G] 地図（別添）の例（八幡西区）

区・八幡西区の一部である。

前述の木屋瀬は、かつての宿場町（長崎街道木屋瀬宿）であることから、観光用・まち歩き用に設置されていると仮定してみたものの、同じ八幡西区の熊手・黒崎といった黒崎宿周辺に、地図はまったくない。長崎街道の起点である小倉北区の室町周辺も、同様である。

次に、行政区の端の方や、住宅が少ない大字との境に設置されているのかとも考えたが（木屋瀬の隣は直方市（のおがたし）大字感田（がんだ））、小倉南区の志井公園から市街地を目指して歩いたら、予想外に多くの町において、表示板に地図が添えられていた。したがって、この仮説も捨てざるをえない。

このように、いまだ法則性をつかめてはいないが、小倉南区の該当する町の多くでは1980年代後半に住居表示が実施されたため¹⁸、また貼られている地図がそれなりに劣化しているため、1980年代後半頃に地図の製作が流行ったので

18 ちなみに、木屋瀬の住居表示実施は1988年である。

はないかと思う。写真5でわかるように、この地図はサイズが小さいもののがかなり細かく描かれており、また丁目ごとに地図が違うため、それなりの経費がかかったと思う。

しかし、地図と街区表示板が並べてあると、自分の位置を容易に把握できる。特に初めてその町を訪れた人にとって、このメリットは大きい。前述したように、福岡市の表示板に別添地図はないが、同市と隣接する糸島市、那珂川市、糟屋郡の4町（宇美町・粕屋町・志免町・新宮町）には、ローマ字も表記された地図が別添されている。

9. 暫定的なまとめと課題

本稿では、北九州市の住居表示に関する施策を紹介した上で、まず福岡市と北九州市の街区表示板の種類と変遷を暫定的に示した。福岡市の街区表示板の定義については、前著で示した内容とほぼ同じであり、それと類似関係になるように、北九州市の街区表示板をそれぞれ定義した。

1963年に政令指定都市となり、5つの行政区が発足した北九州市では、1966年の戸畑区北部を皮切りに、住居表示が徐々に進められた。同市において、区制前に住居表示が始まった福岡市で見られるような、区なし鉄板は存在しない。

当初、住居表示実施地区で区名入りの番なし鉄板が設置されたが、それでは施策の需要に足りず、スポンサー入りの珫瑯板が広く貼られるようになった。現時点で遺っている鉄板は10枚であるのに対して、珫瑯板は56枚である。つまり、鉄板の「レア化」が際立っている。

その鉄板や珫瑯板に代わって、1969年頃からアルミ製の表示板が導入された。その作りが、基本的に現在まで維持されている。1974年の行政区再編成で区名が変わったことにより、板全体が貼り替えられたものもあれば、区名の板のみが被せられたものもある。本稿では、所在する区や時期、形状に基づいて、5区板、7区板、旧区板、旧区被覆板に分類した。

その後、ローマ字板と地図（別添）が局所的に現れるようになったが、導入された地域や背景などは現時点で明らかではない。



出所：筆者撮影（2019年8月14日）

写真6 転写板の例（小倉北区）

ここで、街区表示板の最新の作りである「転写板」についてふれておこう。アルミ製の表示板が導入されて以降、長らく打ち抜き加工で「打ち抜き板」が製作されてきたが、おそらく今世紀に入った「00年代」に、打ち抜き板から転写板に切り替えられた。筆者の調査によると、福岡市では2005年まで打ち抜き板が、2006年以降は転写板のみが使用されている¹⁹。

写真6は、北九州市で見かける2種類の転写板である。文字の仕様はまったく同じであるが、左の地は緑、右の地は黄緑である（モノクロでほぼ見分け不可だが）。転写板は全体に光沢があり、退色や劣化に強い。この写真を撮影した時は雨が降っていたが、文字の識別に支障はなかった。

最後に、北九州市の街区表示板に関して今後追究すべき課題を、3つ挙げておく。いずれも、本稿執筆時点では不確定の事項である。

- ① 珐瑯板の公的位置づけと、公式ながらレア化した鉄板との関係
- ② アルミ製の街区表示板の設置開始時期と、鉄板の引退との関係
- ③ ローマ字板および地図（別添）の導入地域と、導入に至る背景

19 小出（2021）37頁。

【補足図表：福岡市での旧表示板の発見状況

(2019年1月13日～2021年11月26日)】

この図表は、前著で示した「発見した福岡市の旧表示板」²⁰の最新版である。

設置期間	1962～63	1964～72	1972～73?	1972?～82	1982～88/89	2020/9/1現在 (枚/km ²)		
板名	[a] 珉瑯板	[b] 区なし鉄板	[c] 区あり鉄板	[d] 5区板	[e] 7縦板	旧表示板計	面積(km ²)	旧表示板密度
東区	0	0	0	51	32	83	69.45	1.195
博多区	0	10	1	109	0	120	31.62	3.795
中央区	3	5	4	15	5	32	15.39	2.079
南区	0	2	1	51	24	78	30.98	2.518
城南区 (旧西区)	0	7	0	0	47	54	15.99	3.377
早良区 (旧西区)	0	4	0	6	65	75	*20.06	3.739
西区	0	0	4	6	16	26	*35.93	0.724
福岡市計	3	28	10	238	189	468	219.42	2.133
		鉄板計	38	アルミ板計	427	※入部出張所・西部出張所分を除く。		

出所：筆者作成、発見数は2021年11月26日時点。

【補足写真：自作と思われる鉄板】

この写真は、2021年5月31日に福岡市博多区で筆者が撮った、自作とおぼしき鉄板である。

上土居に町を付けた「上土居町」は、1966年2月の町界町名整理および住居表示実施に伴い消滅した、旧博多部の町の一つである。「上土居13番(街区)」の部分までは、前著で紹介した「区なし鉄板」を真似た仕様であるが、その下の「公称 上川端町13番」は完全にオリジナルである。



旧博多部では、伝統的な町名を遺そうとするための抵抗がかなり激しく、結果的にこのような「非公式板」も自発的に作られたと思われる(参考：福岡市(1971)『福岡市史 第6巻・昭和編後編(二)』松古堂印刷、第7章)。

ちなみに、この鉄板が貼られている明治通り沿いの地点は、かつての上土居

町ではなく「片土居町」である（参考：日高三朗・保坂晃孝（2014）『博多 旧町名歴史散歩』西日本新聞社，第3章）。

参考文献

- [1] 北九州市（2020）『各區別公称町名一覧表』令和2年8月1日現在作成，同市情報開示。
- [2] 九州市史編さん委員会編（1984）『北九州市史：五市合併以後補稿資料』北九州市。
- [3] 小出秀雄（2021）「福岡市における旧型の街区表示板の分類」『西南学院大学経済学論集』第55巻第1・2・3号，27-55頁。
- [4] 財団法人北九州都市協会（1983）『記念写真集 北九州市20年のあゆみ』隆文堂印刷。

参考ウェブサイト

- [1] e-Gov（電子政府の総合窓口）〈<https://www.e-gov.go.jp/>〉
- [2] 北九州市：北九州市年表 〈<https://www.city.kitakyushu.lg.jp/soumu/16000156.html>〉
- [3] 北九州市：区政概要（令和3年版） 〈<https://www.city.kitakyushu.lg.jp/shimin/20200125.html>〉
- [4] 北九州市：市政だよりデジタルアーカイブ 〈<https://www.city.kitakyushu.lg.jp/page/dayori-arc/>〉